

数 学 系

目的・特色

数学は数・図形・関数などを対象として数千年にわたり築かれてきた学問です。数学はそれ自身の発達を遂げると同時に、自然および社会に関する諸科学の基礎を形成してきました。数学系では、このような数学の素養をしっかりと身につけ、社会の各分野で活躍できる人材を育てることを目的とし、現代数学の基本的な知識、および数学的なものの考え方を確実に身につけてもらうことを目標としたカリキュラムを組んでいます。

学修内容の概略

まず 2 年生から 3 年生の前半にかけて、数学系の学生ならば必ず修得しなければならない数学の基礎を学修します。数学の基本的な知識や考え方を確実に身につけるためには、ただ講義を聴くだけでは不十分です。じっくりと時間をかけ、心の底から理解したと言えるまで、徹底的に自分の頭で考え抜くことが何よりも大切です。そのため、3 年前半までの科目のほとんどが、講義と演習で一組になっています。講義で学び演習や自宅での学修に取り組むことで理解を深めていきます。

3 年の後半は、講義の内容がより専門的になり、講義数も少なくなります。演習もなくなりますので、自主的な学修がより重要になります。専門分野を学ぶための準備期間と言えるでしょう。

4 年では、それまでに学修した基礎をふまえて、数学の高度な専門分野にふれる卒業研究を行います。多くの場合、数人で一冊の専門書を読み、毎週行われるセミナーで発表者が本の内容を自分の言葉で解説します。

卒業後の進路

数学系の卒業生の持つ論理的思考力、抽象化して考える力、本質を見抜く力は広く求められています。実際に様々な問題に直面した時、従来通りの思考法では解決が難しいかも知れません。このような時、問題を分析し、新しい解決法を自ら考えだす姿勢を体得した数学系卒業生の力量が価値を発揮するのです。どのような問題にも対応して解決していく適応力の広さは多くの職場で歓迎されます。

具体的な進路先は年度により異なりますが、卒業生の約 2/3 が大学院に進学し（他学系や他大学もあります）、さらに数学の勉強を続けています。

就職する卒業生は保険、金融関連分野、情報、通信分野、製造業の研究部門に就職者が多く、また高校の教員になる卒業生もいます。

さらに詳しく知りたい方

連絡先 系主任 利根川吉廣

E-mail: [tonegawa\(at\)math.titech.ac.jp](mailto:tonegawa@math.titech.ac.jp) (※(at)を@に置き換えてください。)

数学系ホームページ

<http://www.math.sci.isct.ac.jp/>

http://www.math.titech.ac.jp/page_01.html

代 数 系

落合 理	教 授	(整数論, 数論幾何学)
下元 数馬	教 授	(可換環論, 特異点論, 数論)
鈴木 正俊	教 授	(解析的整数論)
田口 雄一郎	教 授	(数論)
内藤 聡	教 授	(表現論)
大矢 浩徳	准教授	(表現論)
馬 昭平	准教授	(代数幾何学, モジュライ理論)
谷田川 友里	准教授	(数論幾何学)
染川 睦郎	講 師	(整数論)
川内 毅	助 教	(代数幾何学)
皆川 龍博	助 教	(代数幾何学)
吉川 翔	助 教	(代数幾何学)

幾 何 系

遠藤 久顕	教 授	(位相幾何学)
五味 清紀	教 授	(代数的位相幾何学, 数理物理学)
本多 宣博	教 授	(複素幾何学, 微分幾何学)
山田 光太郎	教 授	(微分幾何学)
カールマン タマシュ	准教授	(位相幾何学)
野坂 武史	准教授	(位相幾何学)
服部 俊昭	准教授	(微分幾何学, Lie 群)
河井 真吾	助 教	(大域解析学)
直江 央寛	助 教	(位相幾何学)
中村 聡	助 教	(複素微分幾何学)

解 析 系

隠居 良行	教 授	(偏微分方程式論, 非線形解析学)
利根川 吉廣	教 授	(偏微分方程式論, 幾何学的測度論)
二宮 祥一	教 授	(数理ファイナンス, 確率論)
三浦 英之	教 授	(非線形偏微分方程式論)
小野寺 有紹	准教授	(偏微分方程式論, 自由境界問題)
藤川 英華	准教授	(複素解析学)
星野 壮登	准教授	(確率論, 偏微分方程式論)
田辺 正晴	講 師	(複素解析学)
小池 開	助 教	(偏微分方程式論, 流体数理学)
辻 寛	助 教	(凸幾何学, 幾何解析学)